

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■めだかたちもエコツア―
この四月に新しく生まれた伊豆市中伊豆の皆さんから、「秋に自分たちで蕎麦を栽培して打つから、事前に蕎麦打ちの指南を」とのオファーがあった。中伊豆では、Qさんの企画運営でこれまで三回、「中伊豆蕎麦サロン」を開いており、二つ返事で道具一式を積んで出かけた。今回のメンバーは、中川さん、武史君の奥さんの佳子さんに家内と私で、なぜかQさんはいなかった。六月末の土曜日、伊豆市中伊豆原保(わらば)の公民館で、地元の方々を中心に、グリーンツーリズムを研究している放送大学の大学院生など一七組が、蕎麦打ちを練習した。ケーキ店を経営しながら温泉療法の普及などで地域づくりに活躍し、豊岡村での「黎明フォーラム」や浜松市での「NPO国際フォーラム」に見えていた伊東市の杉本鎌堂さんも、「韃靼(だつたん)蕎麦」の粉を持って駆けつけてくれた。蕎麦打ち講習会の後は、本場中伊豆産ワザビをたっぷりとまぶした二・八蕎麦や韃靼蕎麦を混ぜた蕎麦のほかに、前中伊豆町長であった海瀬さんの手作り豆腐や伊豆市土産伊勢海老などの贅沢な料理と酒で、大交流会となった。そして翌日が、思いもかけなかったエコツア―となった。最初は、中伊豆山葵組合の山下さんの案内で、天城山から流れ下る深い溪流沿いに作られたワザビ田ツア―である。沢沿いの山道を登って、大小の石が積み上げられているワザビ田の棚田に着いた。車を降りて、冷たくて澄み切った水があちこちから流れ落ちる棚田の中の細いあぜ道を進んで、山下さんのワザビ田に着いた。青々と茂った立派な葉と茎の着いたワザビを自分たちで抜いて、数十本も頂いてしまった。道中、山下さんは、ワザビ栽培の歴史、大きい石から順に砂まで層状に積み上げられていくというワザビ田の隠れた構造、足元に生えている山菜や薬草の名前と効能な

どをわかりやすく教えてくれた。その後、伊東市の鎌堂さんのケーキ店を訪ねた。高級別荘地帯の伊豆高原の深い森の中のしゃれた店で、しばらく歓談した。中伊豆で訪ねたワザビ田の話になると、伊東にも素晴らしいワザビ田があるから案内してくれよというのである。山道をしばらく行くと、水田の広がる盆地があつて、その奥の森の中に見事なワザビ田が続いていた。伊東市にもこんなに立派なワザビ田があることを初めて知った。豊富な渓流水と新鮮な緑の中で、鎌堂さんの自然の偉大さや不思議な話を聞きながら、マイナスイオンいっぱい森林浴を満喫した。そのワザビ田に行く途中では、陶芸工房に寄り丁度火入れの最中の登り窯が見学でき、帰り道では年間二億円も売り上げるという手作りのパン屋さんの焼ききたてパンを味わえるというおまけもあつた。

今回、私たちは地元の方々にも世話になるばかりで、エコツア―の大切なお話である地域の環境保全や産業振興に役立つという要件はほとんど欠いてしまった。エコツア―は、温泉や特別な名所などがなくても大丈夫である。そこにある自然環境や農業などの地域産業を大切にして、もてなしの精神があれば、エコツア―という交流はどこでもできる。そして、その地域でいいエコツア―ができるかどうか、住みやすく訪れたいくなる地域であるかどうかのパロメーターではないでしょうか。

(なんでもあり農園小作人の松)

■NPO国際フォーラム

6月19、20日無事に静岡NPO国際フォーラムを終え、明日は台風が上陸、新幹線は止まってしまう。まさにきりぎりしセーフでした。結局延べ900余人の人にお越しいただきました。内、100人ほどがめだかの学校はじめ友人・知人であつたことになにより嬉しかったのです。二週間ほど前、「1,000人収容のホールが立くと、皆様に過ぎを入れた効果があつたのか、ありがたい極みです。

「内容は？」って、皆様方をお迎えする裏方に徹していたため基調講演もシンポジウムも殆ど聞かずの状態です。わらんのです。

同時通訳に、手話そして要約速記という話し言葉を即文字に打ちスクリーンに表示、英語、耳、目不自由な方々もれなく対応、子連れの方には託児室を、実際に届いていました。

唯一、行き届かなかったことは交流会の料理の量。申し込みの7割ぐらいが参加者と見込んでいたのが、ほぼ全員が参加され、足りなくなったので、うなぎぎようざの追加も焼け石に水。そこに救世主が現れました。NPO魅惑的倶楽部(エキゾチッククラブと読んで)の舞台。皆、著もコップも手から離し。見とれ聞き入ったのです。そして1時間で切り上げポスターセッションに舞台は移されました。

翌日は私が担当していた学生分科会「若者の社会参画」をテーマに空騒ぎ形式による討論会でした。学生ならではの社会貢献の姿が嬉しかった。外国人の子供たちの家庭教師(まったくの無報酬)が、若者だから頼みやすい、家にも入りやすいことで大変喜ばれています。ちなみにここ浜松は外国人が3万人も住んでいるのです。

そして最後は知事による「静岡県発協働のスタイル」の提案で締められます。

(溝口 久メダカ)

■「落ちこぼれ公務員が体験した市町村合併」

「合併しないことを選択した」。「自立した町を目指す」というような報道を聞くが、合併する市町村は自立をしないみたいじゃないか。市町村も自立をしない町村は自立するために合併を選択したのだ。・・・と思っ。

今年4月1日に合併し、新市としてスタートを切った我が御前崎市もそうだ。たぶんそうだ。きつとそうだ。そうあってほしい。念のために新市の建設計画にもう一度目をとおしてみた。財政の効率化が命題であるはずの合併なのに「低負担」「高サービス」の文字が踊っている。

それでもやっとな隅隅の方にそれらしい文章が控えめに書いてあるのを見つけた。よかった。本当にヨカツタ。まずはひと安心だ。

さて新市の庁舎になった旧浜岡町役場に大勢の旧御前崎町職員が移ってきた。職員の大量の廃棄物が出た。中にはこの際だからという物もあつた。この際だからという職員もいたがそれは無理だつた。(俺も含めて)

事前に事務処理などの打合せは済ませたつもりだったが、やはり実際に動き出すと何やかやと出てくるものだ。こまごました事務的なことでも多くを変えなければならぬことに、いちいち不満を漏らす職員もいる。変わりにくいのである。変わることにへの抵抗感も年配の職員ほど大きい。合併で真先に変わらなければならぬのは職員のようである。

合併はある意味絶対のリセットチャンスでもある。長い間に染み込んだ組織の仕組みの中には変えたくても変えられなかったものや、制度疲労を起こしているものも少なくない。合併という言葉がこの時ばかりは黄門様の「印籠」のような威力を放つ。

合併して三ヶ月が過ぎ毎日のように御前崎市という文字を打ち言葉を流してきてきた。そのせいもあつて最近やっとな馴染んできた。変化のひとつを感ぜなくなるのは三ヶ月もあれば十分だということだろうか。ただ市民的には何が変わったのかというところだろうか。特に旧浜岡町民には市名以外あまり変化がないのである。今のところ。

合併してできた御前崎市は市民にとつてよかったか?なんてパカなことを言っちゃいけない。良くするために希望を込めて合併したのだから、ここはケツノアナに力を込めて踏ん張らないといけないのだ。(少々下品でした)

「合併する前にもっと議論する機会がほしかった」なんてことも今更言つたつて始まらない。今からでも思う存分議論すればいいのである。結果だけを見ると旧浜岡町に限ってはよかつたかもしれないと思う時がある。

変え方がよかったと思うことが沢山あったせいでどうか。それから個人的には浜岡町の誰々ですと名乗らなくてよくなったことは嬉しい。背負っていたもの、引きずってきたものが吹っ切れたような気がする。気がするだけでも嬉しい。気だけではなく本当にそうしたいものである。(御前崎市 中嶋 豊メダカ)

■第21回地域づくり団体全国研修交流石川大会

「地域づくり団体全国研修交流会が、平成16年9月3日(金)・4日(土)の2日間、石川県鳳至郡穴水町を主会場に、珠洲市、柳田町、能都町、輪島市、門前町、穴水町、田鶴浜町、七尾市、鹿島町、金沢市、小松市、加賀市の14市町、17分科会で行われる。

第1日目の3日は、午後1時から3時まで全体会をセシモノーが行われ、基調鼎談「持続可能な地域づくり」と題して、「団体活動の継続性から地域コミュニティそのものの持続性まで」について語り合う。3時15分からは各地の分科会場に移動して討論しあう。

第1分科会の珠洲市では「民泊のススメ」(第2)の柳田町では「民話の郷」(鬼(まれば)ととも)に生きる、第3の能都町では、グリーン・ツーリズム、きつとみつかる、あなたの探しもの「農家民宿の将来性を探る」、第六の輪島市は「漆文化を支える職人と祭りの探訪」、第16分科会の小松市では「地域の宝物を保存・活用し、元気なまちをつくる」などと言ったように、「それぞれの地域にあった分科会が、宿泊、夜なべ談義、交流会などと共に用意されている。4日(土)はそれぞれ別の分科会で前日の延長討論現地体験などが行われ、現地解散となる。今回の石川県には「めだかの学校」の開校日と重なることもあり、出席者はいない。何回か出席して感じるのだが、交流を深めて折角知り合い、手紙を出しても返事もよさくない人がいる。行方不明に多いのはどうしたことだろう。静岡県大会の準備会するとき「行政マン」と団体、出席者の名札の大きさを換えよう。時間

が勿体ない」という意見が出て激論となった。そうした状況を見ると宣べなかなである。そこへいくと「めだか」の行政マンは梓はずれ(?)か。次回22回は17年2月に奈良県です。*「わんたたき」とは? 三男坊のわんたたきという言い方が能登に今も残っている。大家族の食卓では黙っていたらご飯をもらえない。そこで小さな三男坊は腕をたいて存在を誇示した。微笑ましくも逞しい様子を愛情込めてこう呼んだに違いない。地域づくりはわんたたきでありたい。ここにいるよと自分の身体を張って知らせる者でありたい。

■静岡未来づくりネットワークの16年度研修交流会

北遠・森町の村松達雄さん(もりわくわく倶楽部主宰)メダカ(カ生)から「現状では主催団体として大会を引き受けるのはムリ」との返事が、明代表幹事から来づくりにネットワーク小桜義明代表幹事から「会場など未定です。あらためて幹事会を開いて検討していきます。(幹事・鈴木武史・榊原幸雄メダカ)

■池のメダカも川へ泳ぎだす「第1回いなさ湖水源まつり」

浜名湖は都田川です。都田川は全国でも珍しい川なのです。アユやハヤやヤマメやニジマスやブラッドバスやブルーギルやコイやウナギやメダカやハゼやタイやヒラメやタコやイサナやヤマトイサナから海水魚まで。オマケに都田ダム湖で育ったアユが遡上する、これまた珍しい川です。めだかの学校のメダカも池から川へ泳ぎ出そうよと、「みんなでキレイ!」を合言葉に、引佐町や浜名湖をきれいにする会などと共催して「第1回いなさ湖水源まつり」を8月21日(土)午前8時半〜午後8時まで行う。会場は学舎近くの都田川(いなさ湖)野外ステーション。内容は午前8時半に会場集合して、9時より開会セレモニー。伊藤茂男実行委員長あいさつ、来賓あいさつ、趣

旨説明。9時半から3つの探検隊、A班II都田川水源探検隊、B班II棚田見学と水中生物探検隊、C班IIダム湖と魚種探検隊に別れて出発。C班では舟や筏でいなさ湖の魚をつかまえて水槽に展示する。各班は2時半まで帰る。簡易水質検査と浄化装置を使って実験する。3時から各班10分ずつの探検隊の報告をする。4時半からグルメリョーで「てんてん」しぶ川の五平もちと流しそりめん、松本庵の手打ちそば、おらんピックの焼きウインナーなど。6時に探検隊解散。6時半から8時まで、豊橋の「クロス・ツュー」の星空コンサート。琴・ハルモニカ・シンセ・パーカッションの異色セッション。コンサートは申し込みなくても参加できる。協賛費として大人のみ千円。(中学生以下無料)。全日程参加者は申込みが必要。ハガキに氏名、〒番号、住所、電話番号、希望探検隊名を記入して、〒番号43112531引佐町東久留女木472-1111リンデンバウム内「おもしろ人立」めだかの学校事務局水源まつり実行委員会まで。

◆学舎だより

学舎みどりの郷キャンプ場は、日本ポークアウト連盟静岡県支部が地元自治会と借用契約を結び、管理していたのですが、今年の3月31日をもって契約を解消しました。そのため「めだかの学校」が地元自治会と「覚え書」をかわして単独契約となりました。借用料は年間10万円。基本的には開校日の年4回と昨年と同じとなっておりますが、めだかの関係者がキャンプなどで使用する場合は、一日250円(一人)でいつでも使用することが出来ます。鍵は事務局で預かってあります。希望者は地元自治会との連絡・調整などもありますので前もって連絡し

てください。なお、今まで湯沸し、風呂、シャワーなどでお湯を使用することもあり、大型ガスボンベが常備されておりましたが、ポークアウトが契約解消したことから、机、椅子、鍋、釜などについては撤去していただきました。釜などについては森町の服部孝工房で伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、徳増兼弘メダカ、耳塚信博メダカらが協力して製作しています。調理器具については、渡辺三ツ子給食チーフメダカらがチェックのうえ取り揃える予定です。もし生徒が単独、関係して使用する場合はプロパンガスに、関係して各自で用意するか、又はとびあ浜松農協果樹営農センタープロパン係053-542-3122引佐町井伊谷IIAコープ西側へ「めだかの学校〇〇」と言って申し込んで下さい。届けてくれませぬ。清算は後程請求書が送られてきます。因みに覚え書は、年間使用料10万円(年4回開校日)、電気代は自治会もち、小さな修理や年1回の汲取りは「めだかの学校」もち。めだかの関係者がキャンプや催事などで使用する場合は、一日250円(一人)。学舎を快適に使用するためはその限りではない。地元自治会とめだかの学校とで覚え書をかわしてあるが信頼関係が前提であることは言うまでもありません。地元自治会の代表の牧野紀之さんは、学舎舎監の牧野久子メダカのご主人です。(事務局・バラメダカ)

■学舎清掃ボランティア募集

8月29日(日)午前9時から学舎の清掃をしたいと思えます。厨房、管理棟、応接室、観音塾、トイレ、パンガロ、周辺部分が汚れています。草刈機、鎌、ぞうきん、軍手など清掃できる服装でお出掛けください。予定は9時からとなっておりますが、何時でも結構です。お弁当持参で。よろしくお願いたします。

◆お断り 今回はメダカ春秋と人ひと、ヒトだよりはお休みとさせていただきます。次回のたよりをお楽しみに。(バラメダカ)

☆2004年6月6日、11時30分。いよいよ本番が始まりました。ミニスター(司式)の式服に身を包んだ吉岡花博会長代理(親父)と登場した。晴れやかに祝奏を奏する56名の乙女たち。頭上には、色鮮やかな花冠が載っています。桂由美、浜名湖花博シンボルウエディングがスタートした。左右のスターDJ手からブルーウエディング・パーティを促して入場しました。ウエディングの第一声「これから行われますシンブルウエディングは、このナレーションを読みはじめました。私の「想い」が飛び立つ瞬間です。思い出を振り返る3年前に、「この想い」は形を取りはじめました。会社設立30周年を翌年に控え、記念の年を自分達らしいイベントで飾りたい。想いを巡らせていました。折よく、花博の紹介や取り組みを熱く語る石川知事の講演を聞き、香りが芳香の満ちる花園で花嫁、花婿が永遠の愛を誓う。こんな結婚式のイメージが浮かんできたのです。興奮のままに、知事に着想を聞いていただきました。面白そうだね。一言で「夢は一生に限り、現実のものにする努力が始まりました」。

早速、私の所属する全日本ブライダル協会の桂由美会長に打診したら、自らご出席いただけるのとご返事をいただきました。さらにバリー・コレのショーまで開催していただけるようになりました。桂先生が提唱していたシンブルウエディング(宗教色のない市民結婚式)形式で行い、ミニスター(司式)は花博会長代理の吉岡徹さんにお引き受けいただきことになりました。惜しむらくは、モネ庭園での挙式アイデア。6月の梅雨時でもあり雨と共用することにしました。「水辺の劇場」桂先生から衣装の提供を受け、ヘアメイク、フットウェア、カメラマンは実力派のプロ集団がサポートしていただき、実行委員会を組織して運営することになりました。中日新聞社も共催を快諾して合同挙式カプルの募集告知と記事を書いていただきました。祝奏は、清らかな乙女に花冠を...母城西遠女史学園オーケストラ部の出演も許可されました。

4月中旬、ふた組のカップルが決まり、俄然準備作業が熱を帯びてきました。全員で会場を下見各セクションの調整、印刷物の発注など、61日各々片時も手放せない状態です。花冠は56個。サンブルは自分で作り、残りは友人たちを総動員。カプルのドレス、立会人フラワールームもすべて「ユミ・カツラ」のオリジナルです。1組は両方の姓にちなんで藤色で、もう1組は水辺の劇場にちなんで水色としました。

ミニスターの吉岡さんは当方用意の原稿に自ら手を入れて、見事な司式台本に仕上がってくださいました。本番近くになってマスコミから取材要請も増えました。TBSは桂先生の密着取材、他にも数社の申し込みがありました。土壌環境

の涉外関係の書類未提出などもあり、本来は一応手書き仕上げたものの、詳細は全部口頭での説明で済ませた。翌日、パソコンで打たれたものを手渡され、ありがたいうちで後悔したものです。本番当日は大荒れの雨天で、モネ庭園の写真撮影は残念ながらできませんでした。業屋に人もものもなくてあれもこれも詰め込んでも支度が進みませんでした。ダーズン・ローズでミニスターのブルーがひととき華やきを添えていました。

「想い」をかちにするのはたいへんなことでした。でも、この大仕事をやりいへんた今、もう一度やるか?と問われたら、きっと「私は即座にもちろん」と答えるでしょう。多くの即座に「専門家に一緒に見果てぬ夢を実現する挑戦は、人生無上の快感だと知ったか(浜松・水村春江メダカ)

◆事務局だより

暑中お見舞い申し上げます。7月20日には千葉県の市川間で40・39・4度、東京では39・5度、佐久間町でも39・4度、新潟・福井・福島など北陸、東北地方では集中豪雨。このごろの地球はどうなっているの?地球温暖化の現象だね。なんて人ごとのように言っている場合じゃない。少しでも地球の負担を軽くしよう。と冷房を我慢しても日照りが続けば川取り水の我が家は即断水。毎日が自然と向き合っているの暮らし。みなさんのところは...

さて、6月4日の44回のめだかの学校は、開始時間が定刻よりだいぶ遅れてお叱りを。給食当番で頑張っている人も授業に参加できるように、この配慮がこの結果に。それはそれとして、一時間目の湯浅明美先生。「私が美しくなったのは、アロマセラピーと内面からくる自信と幸せ感です」。ハーブエキスを教室内にシユシユシユ。幸せのお振分けです。ハイッ。二時間目は別所慶則先生。「針をするのも気の合う人と気の合わない人がいます。それによって効果も違います。肩凝り激しい藤野はつゑメダカと徳増兼弘メダカ。人体実験の結果は「ちよと」といいたいのでした。三時間目の西川裕子先生。さあ、皆さん歌いましょう」と。シンガーソン

グライタールらしく自作の曲をみんなと一緒に。これなら私も歌えると大声で。「バラさんズレるヨ」とは影の声。おむすびと野菜の「医薬交替給食」。玄米のくち食べ過ぎて!。これでもいいの、医薬交替は。私語飲食すべて禁止のわくわくどきどきの時間。次回三役指名。12期最初の第45回校長は岡田清多良。教頭は森岡田校長。用務員は用務員3回の藤田吉恭。岡田校長「私は昨年12月に健康診断で肺ガンであと一年と言われまして...」と。それを支えるのはしっかり者の森田メダカ。更には息子のよう藤田吉恭メダカ。「病を得て人の気持がよく分かるようになった」と言われます。はてさて第45回の学校は如何に。

◆提出課題「オトナのしつけ」

50文字以内。同封のハガキに、出席も兼ねて8月28日(土)までに全員提出しなさい。第45回校長岡田清多良

※なお、44回めだかの学校で、協力依頼した「いなさ湖環境まつり」は「めだかの学校の特別教室にしたら」の意見もあつたが、他団体の協力もあることから実行委員会形式の共催とすることにしました。期日は8月21日(土)一日でタイトルは

「第一回いなさ湖水源まつり」めだか生には期日の関係もあり、前もって発送しました。

◆今回もお礼とお詫びを!遅れが定例化してしまいました。伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、本島慎一郎メダカ、服部守孝メダカ、溝口久メダカ、松本芳広メダカ、鈴木正士メダカ、松井泰子メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さん、今回もお世話をかけました。今か今かと待っている生徒の皆さんごめんね。

◆十二期の「めだかの学校」申込を受付しています。第十二期は、平成16年9月1日から平成17年8月31日までです。継続希望者は手続きが必ずです。手続きを怠ると名簿からはずれ、自動退学となります。また未手続きの生徒にはお申込書を同封します。8月31日まで事務局あて、千円を添えてお申込みください。申込書には必ず「事務局・榊原幸雄メダカ」(事務局)

◆各地のたよりの掲載について

情報をください。地域のイベント、あなたの活動など、どしどし送ってください。次回発行日は11月1日です。10月20日までに郵便かFAXで、事務局(FAX 053・545・0381)メーラーの方は、照井泰子あてEメール/teru@net.co.jpメーラーの方は、割付の関係もありますので、事務局に「一報を。宜しくお願いします。

◆めだかの学校事務局
〒431-2531
静岡県引佐郡引佐町東久留
留女木472-1111
「リンデンバウム」内 榊原幸雄
※学舎「みどり」内は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。

第四十五回の授業は「大人のしつけ」

第45回の授業内容について検討しているとき、長崎で五年生の女子生徒が同級生の女子生徒をカッターナイフで切りつけ殺害した事件があった。それもメルでのやりとりが心理的に行動に走らせただけでは、指摘もあつた。子どもの凶悪犯罪の低年齢化は大人の責任が大きいのではないか。そこでテーマを「大人のしつけ」として、同一テーマを七班に分かれて討論し合うことにした。テーマがテーマだけに前もって考えてくるように、50文字以内の課題提出を求めた。

さて、「めだかの生徒」は、「大人のしつけ」についてどのように考えているのだろうか。提出された課題と発表された内容をまとめて「46回のため」に同封することにした。

◆発表者II A班・小嶋良之

社会（大人）の常識は子どもの常識と書かれている。しかし現代はO才から死に際の人まで、すべての世代の躰が弱くなっている。できてるはずの戦前派まで崩れているからこれは根が深い。躰がどうゆうものか解っていない人が親になっているし、周囲の人や、次代の人に躰とゆうものをどう伝えていくかもわからない人が多い。若い人には躰が育つ土壌があるから、キチツと、なぜ必要かどうかを理解させながら教えていく必要がある。日常の所作の中でつたえてゆくのが躰であり、男女共同参画社会とはいえず、母親の役割は大きい。学校の先生の役割も大きい。全般的に、子育てを終わってから躰の足りなさを気づくものだ。

◆発表者II B班・本間稔

メンバーに臨床心理学の池田先生がいたので、「なぜ日本の躰ができていないか」について説明解された。それは「食育がないこと。家庭の団らんがないこと。現実検討能力がないこと」ということだった。現代の大人は、小学校の先生を取り上げても48%の人が心身症というように心が病んでいる。これは二世代前からの傾向で今こそ策を講じていかなければならない。大人が、①子孫を残すこと。②子育てをし、健全な成人にしておくこと。③仕事をしなければならぬこと。④親兄弟や子供を幸せにすること。⑤地域社会に貢献していくこと。こうして生きていく目的をはっきりし、教育していくことが大切。

◆発表者II C班・大西剛広（特別参加の大学生）

昔と比べて挨拶しない、考えない、親に頼りっきりの子供が多くなったのは、やはり学校でなく親の躰の問題。親が子供に迎合したり、危ない事は回避させたり、過保護だったり、父親が土、日曜はゴロゴロしてたりして威厳がなくなっている。このような骨抜き親になったのは高度経済成長や食育の変化によるもの。大人から、また経営者から積極的に挨拶すれば挨拶は復活するし、だらしない大人、例えばイラク戦争に出兵するのを反対することもできない大人を見たら若者が立ち上がることもあつてもいい。大人と子供、大人と大人が面と向かって、思っていることをぶつけ合い話合うことの中で躰が身につけていくと思う。話し

合う機会をより多くみつめることで、あることを見きわめていけるのではないか。「めだかの学校」が、そうゆう場であるよう、願っている。

◆発表者II D班・西川裕子

日本の現代は、20代が個人主義、30代が新人類などといわれ、まさに他人の目を気にしない社会。人の話をよく聞くこと。先輩から声をかけられたら返事をすること。人と自分は同じ考えではないこと。約束を守ること。といったことができていない。躰に関して、自分は何ができるか、一人ひとりが自覚し、自分を見つめ直すことが大切。いつの時代もアウトルーパーがいるように、躰のレベル差も当然でてきてしまうが、一人ひとりができることをやっていけばいい。大人として生きていく背中が見えなくてはならない。

◆発表者II E班・古橋利雄

とにかく、すべての人に感謝することだ。足を踏まれても、神経が通っているのを確認させてくれてありがたう、という位の気持を持って接することだ。その時、その時に感情をあらわに出さないで、常に人に良かれと思うことをすることだ。「自分以外、すべて師なり」という言葉があるように常に人から良いことを学び取れるんだという気があれば、誰に対しても敬意を持って接しられる。安全と安心では、安心という言葉の方があまいな点があるように、躰もあまいな部分もあるが、とにかく人に良かれと思って接することが大事だ。

◆発表者II F班・古田賢二郎

バラエティ豊かな世代のメンバーで構成された我が班は現実の問題点について話し合った。例えば電車のホームでタバ

コを投げ捨てている大人が多い。その一方で拾っている人も大人なので、いい面と悪い面を持っているのが大人なのである。純粋な子供たちにはいいことを勇氣を持って伝えていきたい。戦争体験も伝えていきたい。結局は自分に返ってくるのが躰であるから自分が原点。自分で自身をしつけて、实际行动で伝えていかなければならない。めだかの学校に、そうした躰の原点がある。

◆発表者II G班・加茂光廣

細かいひとつひとつを言うより、親が、目標と理念を持って生きていく姿がいちばんの躰だ。現代は、食事ひとつとっても個食であり、部屋も個室化して、家族が崩壊している。躰もむずかしくなってきたり、まず両親が仲良くなり、人はどのように生きていくかを確立していかなくてはならない。物質文明やマスコミ中心の世で、そうした目標を持つのもむずかしい。特に大人の躰となると、大人同士、言う場もない。大人は大いに恥をかいて躰を知った方がいい。花博のアテンダントを見ると、大変に好評で、大人のマナーを備えている。若い人にも、こうした機会を与えたかった。

■提言

日本語には短くも素晴らしい言葉がある。おはよう・こんにちは・こんばんは・さようなら・おやすみなさい・ありがとう・ごめん・いただきます・どうもどうも・どうさま・どうぞどうぞ・どうもどうも・敬語、謙譲語もと入れて出来るところから、履物も揃えてね。（言い出しっぺ・榊原幸雄）

「課題提出」(50文字以内)

○①当り前のことが当り前に出来る人。
○②他人の痛みが分かる人。○③約束を守る人。
(浜松市・芥川計治Ⅱ出席)
○大人に成り切っていない親が多い世の中、まず子供たちに尊敬される親や大人になりたいものです。

(藤枝市・朝比奈国雄Ⅱ出席)
○大人の仮面を付けた子供が、子を産み育てる。不安定な世代が歴史を構築する姿は、自然の崩壊にも通じます。

(浜松市・池田誠Ⅱ出席)
○頼もしい心と頼りない心の両方をもつ大人が、若者を信頼し、応援し、目標を明確に示せば、可能性を見せてくれる。

(引佐町・石野省三Ⅱ出席)
○自分を包む、沢山の「おかげ様」に感謝し、「お互い様」で暮らして行ける：そんな「大人」になりたい！

(豊岡村・市川祐一Ⅱ出席)
○どんな時にも相手の立場になったつもりで話をする、挨拶の励行。

(引佐町・伊藤八右Ⅱ出席)
○今更「しつけ」を論じるんですか？。あたりまえのことをあたりまえにやることしかないんじゃないですか？。

(引佐町・伊藤茂男Ⅱ出席)
○大人のひとりとして、バランス感覚をもって有言実行する、センスある人になりたい、と思っています。

(豊橋市・伊藤豊子Ⅱ出席)
○伝えるべき親が躰・マナーを知らないのでは…としたら子供が身につけるはずもないか。(豊岡村・伊藤英雄Ⅱ出席)
○生活を昔にもどしたらしつけしつけと言わなくても自然に身から出てくるのではないのでしょうか。頭でなく実行を！。

(磐田市・井上啓子Ⅱ出席)
○大人だから完成人と思ひ込み、自分の都合で子供を叱るのは、感情か？しつけか？親も子供と共に育つもの。

(磐田市・今村純子Ⅱ出席)
○自分を愛することが出来、自分を大好きになれる大人になれば、子供に楽しくしつけが出来ると想います。

(浜松市・内山ゆきゑⅡ出席)
○何が大切か大事か、価値を教える基準があいまいで、自由は責任が伴うこと、命の重さを勉強し、子供に伝えなくては…。

(袋井市・大橋町代Ⅱ出席)
○犬猫も人間も幼少時の躰が全て。成人になっても配慮に欠ける人間への躰教育は基本的に無駄な抵抗と知るべし。

(浜北市・奥宮教生Ⅱ出席)
○これからの日本、どうなっても…各自自覚あるのみ！

(浜松市・大谷洋介Ⅱ出席)
○何か一つ決めた事を手抜きせず毎日習慣になるまでやる。まず自宅のトイレ掃除を毎朝行なう事から始めたら！

(浜松市・岡田清多良Ⅱ出席)
○暮らしやすい社会をめざして来たのに、道路側にあたらしいふとん一組捨ててあった。こんな世の中にしたのは…。

(春野町・尾上美智子Ⅱ出席)
○はつきり言って難しいのでは。でもその人の生き様は、人生の結果として現れるので、結局自己責任です。

(磐田市・小野泰弘Ⅱ出席)
○世の中等等、平等と言うけれど責任のなさが気になります。自分も含め責任ある高齢者に向け勉強会に励んで行こうと思っています。

(三ヶ日町・階堂隆夫Ⅱ出席)

○人が見ていなければ、悪いことをする。これが大人の悪さの根源ではないでしょうか。(浜松市・加藤修一Ⅱ出席)
○正直者が損をする様な世の中を作ってはいけません。子ども達に規制する事を大人もしてみるべきです！

(豊橋市・金子芳美Ⅱ出席)
○大人の躰は、社会が醸し出すもの。戦後の物・金信奉が利己主義を増殖させ、志と哲学を失わせた。

(福田町・川島安一Ⅱ出席)
○この年になると改めてしつけを学ぶことが少ない。再確認する事は今後の生活にきつと良い影響を生むと思う。

(浜松市・加茂光廣Ⅱ出席)
○大人は誰がしつけるのか。家族・会社、それとも地域か。悩みは深い。自らが自己けんさんに励むしかないか。

(名古屋市・川合光久Ⅱ出席)
○常識を守れる人、真面目な人が評価される社会であって欲しい！

(雄踏町・北野美津子Ⅱ出席)
○現在2人の子供の育児中。まだ自分自身のしつけも出来てない状態です。とても「しつけ」について語れない。

(細江町・久米久乃利Ⅱ出席)
○躰とは子供の問題だと思っている大人が増えた。社会そのものが躰機能を持たなければ未来に光は見えない。

(藤枝市・小嶋良之Ⅱ出席)
○朝、おはようと言った子供達や家族にしっかりと声を掛けているだろうか？履物を揃えると心が揃う。まず大人から。

(森町・榊原淑友Ⅱ出席)
○「凛として立つ」・態度、容姿、声等、大人から手本となる事をしていくか？上記の事を通して。

(磐田市・齊藤昭Ⅱ出席)
○言葉は愛、言葉は武器、おはよう、いただきます、ごちそうさま、ありがとう、ごめんなさい。素直に言える大人に。

(引佐町・榊原幸雄Ⅱ出席)
○大人になったら自分自身でしつけるしかないと思う。それが出来る人が本当の大人ではないでしょうか。

(松阪市・坂梨律子Ⅱ出席)
○毎日楽しく仕事を。健康でおいしいご飯が食べられ笑える方がいいけど怒ったり泣いたりでも感謝感謝！

(浜松市・匂坂玲子Ⅱ出席)
○自分の事優先の大人が増えたこの頃「親のコピー」とされる子供達の運命は？大人をしつける事より幼い頃の深い愛情が本当に大切なのでは？と思う。

(浜松市・佐藤律子Ⅱ出席 字余り)
○大人と言うより親の躰。年代毎に違う親の躰かた。今の60代が日本の癌か。今まさにその子供達に問題ありと見る。

(富士市・佐野玲子Ⅱ出席)
○流通にかかわるようになってはや8年昔の栄光の中から抜け出さない人の多さに驚く。大人のしつけの問題点もこの中にあるような気がする。

(湖西市・佐原剛Ⅱ出席 字余り)
○むずかしいですね。対等の立場で互いを思いやる、という意識を持つことでしょうか。(豊岡村・島田尚子Ⅱ出席)

○私の住む星シンガポールは多民族国家。常識・道徳が異なる者が仲良く暮らすための厳しい罰付きルール。日本も必要かも？と最近感じてならない。もうキレイ事ですまない段階にきてしまっている？。(シンガポール・木村智子Ⅱ出席 字余り。浜松市出身)

○子供のしつけを言う前に私たちおとなの日常生活における行動、言動について深く反省する必要がありますね。

(引佐町・鈴木計芳Ⅱ出席)

○一生懸命は美しい。一生懸命は素晴らしい。大人がすべて原点に還って一生懸命取り組むことが大切ではないか。

(浜松市・鈴木哲朗Ⅱ出席)

○まずは自らの行動を見直す。あいさつはできているか、ポイスタは、道徳は、それが学校にどのように伝わっているか。

(豊岡村・鈴木正士Ⅱ出席)

○もう少しだけ広くまわりを見ましよう。声の大きい人が勝ちではありません。人の話を聞きましょう。

(浜松市・鈴木真弓Ⅱ出席)

○良い悪いのけじめ、人に優しく接することが相手の心をうごかすのでは、自分のした事に責任がもてれば良い。

(浜松市・鈴木正子Ⅱ出席)

○我がままやおごりを失くすためにいるいるな勉強が必要。めだかの学校は最高。自らしっかりと根を張ろう。

(天龍村・関京子Ⅱ出席)

○核家族で大人のしつけをする立場の人が居なくなつたですね。親の後姿を見て育つ子供に後ろ指さされるかも。

(静岡市・高橋俊光Ⅱ出席)

○①一生勉強と前進②社会の見本、子供の見本と日々努力。

(浜松市・田中房子Ⅱ出席)

○挨拶返事は大きな声ではっきりと。目の上の人より先に。ありがとと何事にも、人目のない所でも礼儀を正しく。

(浜松市・伊達公一Ⅱ出席)

○店に入ったとたん、あまりにも気持ちのいい挨拶に魅了された事があります。こ

んな挨拶が出来る大人になりたい。

(森町・田邊哲Ⅱ出席)

○しつけは化粧と同じで意識の程度で必要度が違う。躰の向上には社会の目が大きく左右する。決して強制すべきものではない。

(引佐町・忠敬Ⅱ出席)

○昔は子供をしつけ、今は子供にしつけられています。グータラおやじ。

(金谷町・土屋誠一Ⅱ出席)

○電車の乗り降りのマナーがなんとかならないかしらと思っています。又、相手に対しての有難うも少ないですね。

(湖西市・寺田悦子Ⅱ出席)

○上司先輩に対しての言葉づかい、挨拶を己れから先に言葉態度を表す心を持ち続ける心がける事をしつける。

(浜松市・徳増兼弘Ⅱ出席)

○しつけは子供の時。大人になってからは自己意識！。大変むずかしいと思う。

(大須賀町・鳥山剛Ⅱ出席)

○「無駄づかい」無駄づかいという言葉は聞かなくなつた。無駄も経済成長率にカウントされるのだろうか。

(御前崎市・中嶋豊Ⅱ出席)

○生かされている自分に感謝して、与えられた使命を全うする行動をすれば、自ずと答えがでてくるんでしよう。

(浜松市・中村明男Ⅱ出席)

○人のふり見て我がふり直せ。最近の若者をしめつらで見ているあなた？自分の子どもは大丈夫？(最近、我が子のことで悩んでいるので)。

(細江町・夏目美之Ⅱ出席)

○大人のしつけではなく本人の自覚である。自覚欠乏症という社会病の処方箋は地域力にある。そう信じたい。

(鹿角市・奈良努Ⅱ出席)

○考えてみると、最近誰かに怒られたり、注意されたりしていない。誰か私をしつけてください。

(浜松市・西川裕子Ⅱ出席)

○大人は子供の手本。一度口にしたことは実行しよう。口先だけなら政治家と同じ。先ず行動プロセスが大事。

(細江町・西原弘Ⅱ出席)

○十人十色の価値観・環境で育つた知恵と素直な心を育てるには、自ら目・耳・口・身体をいかす。そして素直になる事から、感謝。

(浜松市・蜂須賀千賀子Ⅱ出席 字余り)

○「しつこくしてさー身に美しいって字だつておめえ知つとるかー」めだかの人ら身について美しいもんなー。

(新居町・服部守孝Ⅱ出席)

○「自分のしつけ」。思想・哲学・理念が大切だと思えます。

(磐田市・原邦司Ⅱ出席)

○人のことを考えられ、逃げない、ごまかさないので大人、その子をみれば親がわかる。今大人をしつけなくては。

(浜松市・原田浩志Ⅱ出席)

○日本はどこへ行つてもゴミがある。小さな物産展の不法投棄等、この責任は大人。道徳マナーを養つて欲しい。

(袋井市・原田康代Ⅱ出席)

○何でも親のマネをする2歳の我が子を見ると親次第で子の将来が決まる気がします。大きな背を持つ人間に。

(浜松市・原田憲治Ⅱ出席)

○①整理②整頓③清掃④清潔⑤躰(しつけ)⑥番目がしつけです。①②④ができてはじめてしつけなんです。哲学者森信三先生が言っております、しつけは○の時が勝負だそう。つまり9才ま

です。でも今からでも遅くありません。大人のしつけは気付いた時です。

(掛川市・萩田博Ⅱ出席 大字余り)

○痩せ我慢すること、見栄を張ること、自分だけの美学を持つ大人が少なくなつてしまった。武士は食ねど高楊枝だ。

(静岡清水・花井孝Ⅱ出席)

○ささやかなマナーと思いやり、自身身を律する事。より多くの人が快適になるためのルールは社会に必要。

(岐阜県福岡町・早川裕康Ⅱ出席)

○今まで生きて来た自信、堅い殻を身にまとっている大人達、この人達にしつけをするのは、至難の業か！。

(浜松市・藤野利昭Ⅱ出席)

○相手に対する思いやりの心と、素直になれる心が大人となった人にも学習させてくれるのではないのですか。

(浜松市・藤野はつえⅡ出席)

○世間様の常識、当たり前をあたり前にしてほしいヨ。世間様で大きな顔する前にサ。これも大人のしつけと思う。

(豊岡村・藤森照明Ⅱ出席)

○子供も大人も同じです。ただ加えるならば、子供に言うしつけは大人ならば完璧なくらい出来ていないと？。

(浜松市・藤田吉恭Ⅱ出席)

○おはようを家族に言えない大人が増えている。挨拶が基本ということを知らない。朝の挨拶を言える女房は良い。

(雄踏町・藤田潤吉Ⅱ出席)

○大人のしつけは困難だけれどほめてあげると靴を揃えなかつた人も揃えるようになる。しつけ上手はほめ上手。

(雄踏町・藤田久枝Ⅱ出席)

○人のふり見て我ふり直せ。アテネオリピックも原点に還りました。全ての

人々が原点に戻り原点に還る時では？。

(豊田町・古田賢二郎〓出席)

○生き様の美醜は判っているが、打算や雑念が増殖、楽な路を最優先するふがいなさ判ってはいるが。

(浜松市・古橋利雄〓出席)

○大人もしつき、しつけられてきた。子供の手を借りて大人を躰直してもらって虫のいい勝手な話ですよ。

(浜松市・別所慶則〓出席)

○鉄は熱いうちに打てとか、大人になつてしまつては遅い。だが、常識・正論を隠せざ口にできる社会を作ろう。

(豊田市・堀田望・正子〓出席)

○三自の精神「自覚・自発・自治」を子供時代に徹底しないと手遅れですが、もう一度見直してみましよう。

(浜松市・本間稔〓出席)

○40過ぎたら自分の顔に責任を？社会に、人に迷惑をかけない。大人としての自覚を持って楽しく生きよう。

(引佐町・牧野久子〓出席)

○パーゲン会場に突進、保護者会でおしゃべり、ランチ会場、この頃にするしつけのなっていない大人。心がせまいのです。(岡崎市・松本あや子〓出席)

○この年になつても未だに迷える子羊です。多分死ぬまで自分を見つめ直すことを心がけつつ終わるのでしよう。

(細江町・松田不秋〓出席)

○分かつていてもマナーを守れない大人が多い。それ以上にマナー知らない大人が増えていることも怖い。

(袋井市・松本芳広〓出席)

○子は親の背中を見て育つといわれます。私達、お互いに親しみあい美し美しみます。す、という心で毎日生きていきたいです。

ね。(浜北市・松本泰榮〓出席)

○身を美しく、折り目正しく、他人をおもいやり、廻りの人に苦をかけず飛ぶ鳥跡を濁さず極楽浄土への旅立ちを(和歌山県竜神村・真砂典明 出席)

○する側、される側、50% and 50%のバランスが、ちょうどよい。(浜松市・耳塚信博〓出席)

○子供の躰は同じ目線だと、親の字は、立ち木に登って我が子を見つめ育てる大切さ。心の眼で、大人の躰もハート(掛川市・水野忠義〓出席)

○脚下照顧。まずは自分の日々の行動が自ら恥じる事はないか？子供に対して、社会に対して。&笑顔とブライド。(浜松市・水村春江〓出席)

○他人が他人をしつける！というよりも大人の場合、いかに自身が素直な心になつて、自分を直視できるかに尽きると思います。一つの事を考えても謙虚な心の時といじわるな気持の時とは全く行動も違つてきます。そうした自分の気持を客観的に見られるかどうか。それができるようにするのはどうすべきなのか。難しすぎて分かりません。私もいつも自分の弱さに悩んでいます。(浜松市・水島加寿代〓出席 大巾な字余り。ダメ)

○人は思っている人間になつていく。常に美しい言葉、ふるまいを心の中で自分に言う言葉につけられていく。(浜松市・溝口久〓出席)

○人は生れてから一歳半までの環境が人格を作り上げるといふ。これから生れてくる子に良い環境を与えること。なつてからのしつけは？。(天竜市・本島慎一郎〓出席 カッコ別)

梓、字余り)

○育てられたプロセスにより異なつた躰感を持つ。ゆがみを持った躰成りを年を重ね直すのは、しばし苦しみを伴うもの？(東栄町・森下幸子〓出席)

○自分をふり返る絶好の機会となることと思う。皆様の生きざま、体験を学んで自己を磨いていきたい。(豊橋市・森田泰子〓出席)

○基本的に大人のしつけは不可能に近いと考える。ただ子ども弱者への虐待だけは許せず様々な対策が必要。(細江町・山名れい子〓出席)

○親は仕事だけでなく家族との時間を取り戻し地域のつながりを蜜に。子供から年寄までの交流場を作つていこう。(雄踏町・山内勝巳〓出席)

○大人とは何？何歳になつても他人とかかわり成長し人間性が育つていくと思う。世の中、無関心がしつけを忘れていく。(雄踏町・山内ひさ子〓出席)

○人は孤独に弱いものだが、まず自分としっかり向かい合ひよく考えその上で子どもの先達として生きていきたい。(豊田町・八木正子〓出席)

○結婚して30数年。いいつづけられてやつとこの頃良くなったクセ。女房のガソコさに脱帽。(浜北市・山崎敏明〓出席)

○大人に「しつけ」を教える先生として、最適任者と思える人は、惚け症状が見られるようになった人がよい。(名古屋市・山根圭二〓出席)

○私達は数十年の人生を沢山学んで来ましたが、まがいをしたらその自分を受け止め気づき反省することだと思つた。(袋井市・湯浅明美〓出席)

○「御蔭様で」「ありがとう」と言える大人が減つた今、人として、社会の中で生きるための教育が必要ですね。(浜松市・横田良明〓出席)

○私ごと、ドアはあけつぱなし、電気付ければなし、オリンピックでテレビ付ければなしで寝てしまひます。反省。人のしつけ」本当にそうですね！(藤枝市・横山浩史〓出席 カッコ別余り)

■別項提出
○私は知事が提唱された「人づくり百年の計」委員会の会長をされた草柳大蔵さんをひよんなことで知りました。日曜日ラジオで放送されていた内容が「午前8時のメッセージ」という本になつています。是非皆さんにおすすしめします。(島田市・池谷俊裕〓出席)

○おもしろい提案がたくさん出たら「かがり火」(地域情報誌)で特集させていただきます。(東京都・菅原欣一〓出席)

○「出席」「欠席」「自分の近況」などを書いて提出してくれた生徒もいます。課題と違つたので外させていただきました。

■後記 難しかったです。大人のしつけ」それぞれの生徒がそれぞれの受け止め方で書いている。それも50文字で。多くの生徒が50文字でまとめている。さすがです。それだけに45回の授業は真剣に充実感のあるものになりました。「またやりたいね」という意見がたくさんあります。少し間をおいて「おとなのしつけPART2」をやりましよう。磨いといってください。ではその時まで。(ハラ)